

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-175688

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月30日

(51) IntCl[°]

識別記号

F I

B 6 5 D 85/18

B 6 5 D 85/18

N

A 4 7 B 61/00

A 4 7 B 61/00

B 6 5 D 5/50

B 6 5 D 5/50

Z

審査請求 未請求 請求項の数1 FD (全3頁)

(21) 出願番号

特開平8-353763

(22) 出願日

平成8年(1996)12月18日

(71) 出願人 592075079

株式会社アサヒ

東京都足立区椿2丁目2番1号

(72) 発明者 野澤 弥太郎

東京都足立区椿2丁目2番1号 株式会社

アサヒ内

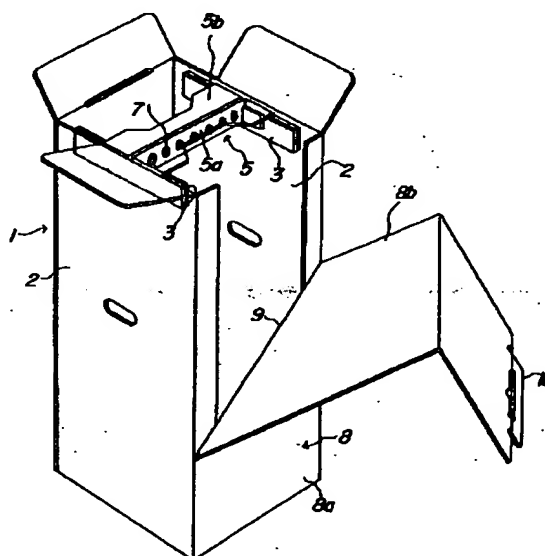
(74) 代理人 弁理士 松丸 国雄

(54) 【発明の名称】 簡易ハンガーボックス

(57) 【要約】

【課題】 ダンボール紙等の厚紙製のボックスの上部に同じく厚紙製の懸吊部材を設け、この懸吊部材にハンガーを掛けるようになる主に引越等の際に洋服類を折畳むことなく吊した状態で持運びを可能にした簡易ハンガーボックスの提供。

【解決手段】 折畳可能な厚紙製のボックス1において、該ボックス1の上部に同じく厚紙製の懸吊部材5を懸架し、この懸吊部材5にハンガーを掛けるようにすると共にボックス1の正面板8はその下半部8aがボックス1に固定され、上半部8bを中間部から斜め上方に設けられた斜状折曲線9から開放可能になるようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 折畳可能なダンボール紙等の厚紙製のボックス1において、該ボックス1の両側板2・2の上方部内側に厚紙製の支持板3・3を設けて該支持板3・3と前記内側板2・2との間に間隙部4・4を形成し、厚紙製の懸吊部材5の両端に設けた差込片6・6を前記間隙部4・4に差込み懸吊部材5をボックス1の上方部に懸架せしめ、懸吊部材5に穿設した懸吊孔7にハンガーを掛けるようになり、更に前記ボックス1の正面板8は下半部8aがボックス1に固定され、上半部8bが中間部から斜め上方に設けた斜状折曲線9から開放可能になるようにしたことを特徴とする簡易ハンガーボックス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は主に引越等の際に使用する簡易ハンガーボックスに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来ハンガーボックス或いはハンガー掛けと称されるものは、その多くが金属製、或いは木製等からなり、それ自体は多用途の目的はなく、洋服掛けの機能だけを持つ単一用途を目的として作られたものであり、引越時に運送業者が簡便に使用できる厚紙製の簡易ハンガーボックスは皆無である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来引越等においては、ダンボール箱に衣類その他細かい必需品等を詰込んで運搬することが多く、使用後はダンボール箱を破棄してしまうケースが多い。

【0004】本発明はこのようなダンボール箱の無駄をなくし、引越後にもダンボール箱をユーザーの希望に応じてハンガーボックスとして使用可能になる新規の簡易ハンガーボックスを提供することを目的としたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明に係る簡易ハンガーボックスは、前記の目的を達成するため、折畳可能なダンボール紙等の厚紙製のボックス1において、該ボックス1の両側板2・2の上方部内側に厚紙製の支持板3・3を設けて該支持板3・3と前記内側板2・2との間に間隙部4・4を形成し、厚紙製の懸吊部材5の両端に設けた差込片6・6を前記間隙部4・4に差込み懸吊部材5をボックス1の上方部に懸架せしめ、懸吊部材5に穿設した懸吊孔7にハンガーを掛けるようになり、更に前記ボックス1の正面板8は下半部8aがボックス1に固定され、上半部8bが中間部から斜め上方に設けた斜状折曲線9から開放可能になるようにした構成に係るものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の具体的な構成を図面にもとづいて説明すると、ボックスはダンボール紙製で折畳

可能であって、底部及び頂部は周知のダンボール箱と同様に開放可能であり、各舌片を組込むことにより底部及び頂部が閉塞される構造となっており、ボックス1の両側板2・2の上方部内側に厚紙製の支持板3・3を設けて該支持板3・3と前記両側板2・2との間に間隙部4・4を形成する。そして同じく厚紙製の懸吊部材5の両端に設けた差込片6・6を前記間隙部4・4に差込むことにより該懸吊部材5を支持板3・3に懸架せしめ、懸吊部材5に多数穿設した懸吊孔7にハンガーを掛けるようになる。

【0007】懸吊部材5は中央長手方向に対して折曲げられ2枚の板が重合状態となっている支持部5a・5aに多数の懸吊孔7が穿設されており、支持部5a・5aに連設された水平部5b・5bの両端に差込片6・6があり、この差込片6・6を前記間隙部4・4に挿入し、支持板3・3に係合せしめるようになる。

【0008】ボックス1の正面板8は下半部がボックス1に固定されていて開放不能状態にあるが、中央部から斜め上方に設けた斜状折曲線9から上半部8bが開放可能となっており、上端の舌片10がボックス1の頂部にある他の舌片と組込むことによりボックス1の上部が閉止される。そして正面板8の周縁部には切取線11があり、この切取線11にカッターナイフ等で切込みを入れて正面板8を切除すると引越後において日常的に簡易ハンガーボックスとしても使用できるようになる。

【0009】

【発明の効果】本発明はボックス1の上部に懸吊部材5を設けてあり、該懸吊部材5に洋服等を掛けた状態で引越の荷物運搬が可能であって、荷作りが容易で運搬に便利であるばかりでなく洋服の畳みじわもなく引越等における洋服の持運びに最適であり、しかもボックス1の正面板8は下半部8aがボックス1に固定され、上半部8bが斜状折曲線9が開放可能となり、開放時における開口部の底部が上方に斜めに開口するため洋服の出し入れが容易であり、且つ正面板8の下半部8bの固定と前記懸吊部材5の存在によってボックス1の著しい補強効果が得られ、非常に堅牢なハンガーボックスが得られる利点を有し、更に引越後においてもボックス1を破棄することなく簡易ハンガーボックスとして使用に供し得るものでダンボール箱の無駄がなく、前記の運搬上の便宜と相俟って極めて有益な簡易ハンガーボックスを提供し得るものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】ボックスの上部を開放して要部を示す斜視図

【図2】洋服の懸吊状況を示す正面から見た断面図

【図3】要部の分解斜視図

【図4】ボックス全体の斜視図

【符号の説明】

1 ボックス

2 両側板

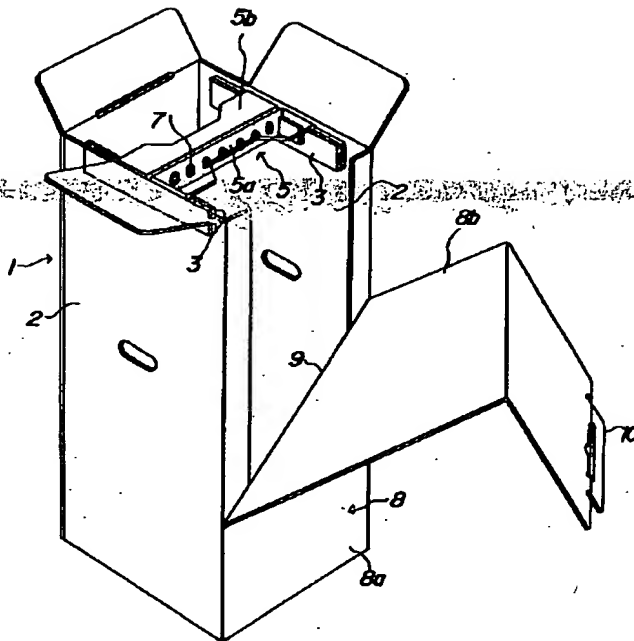
(3)

特開平10-175688

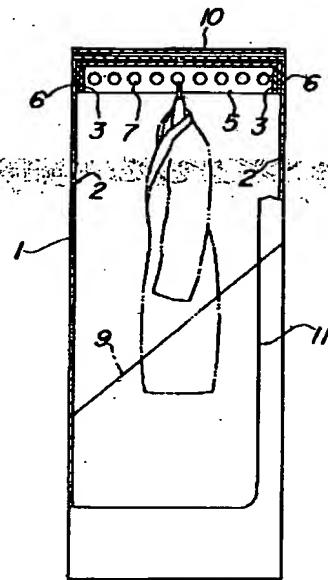
- 3 支持板
4 間隙部
5 懸吊部材
6 差込片

- 7 懸吊孔
8 正面板
9 斜狀折曲線

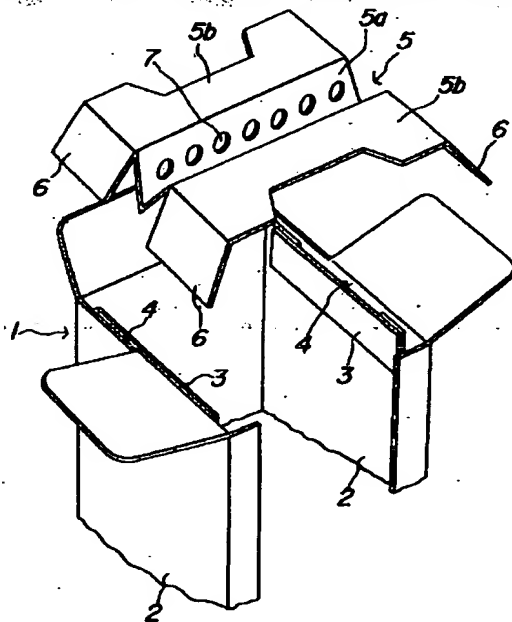
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

